

FREE

JMUV

vol.40

Oct. 2019

SPECIAL FRONT INTERVIEW

THE RAMPAGE

from EXILE TRIBE

神谷 健太 / RIKU / 浦川 翔平

SPECIAL INTERVIEW

HIGH&LOW

THE WORST

吉野 北人 / 川村 壱馬

(THE RAMPAGE from EXILE TRIBE)

SPECIAL Report

AMAZING COFFEE

2019.9.15 MOMOTARO Fes.

JAPAN MOVE UP WEST





2019年、JAPAN MOVE UP WESTは、
エンターテインメントの力で、岡山県を始め中四国エリアにさらなるムーヴメントを起こすため、
FREE PAPER、EVENT、WEB等、従来のメディアを多角的に活用し、
まち、人、お店などを“つなげる”メディアとして、皆様にサービスを提案していきます。



JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会 加盟企業一覧 (2019年10月11日現在)



株式会社 祥 株式会社DMM.com

special partner コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 イオンモール岡山

JAPAN MOVE UP WEST 賛同企業加盟 - その他お問い合わせは右記まで JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会運営事務局(株式会社HEADLINE WEST) TEL:086-250-8089

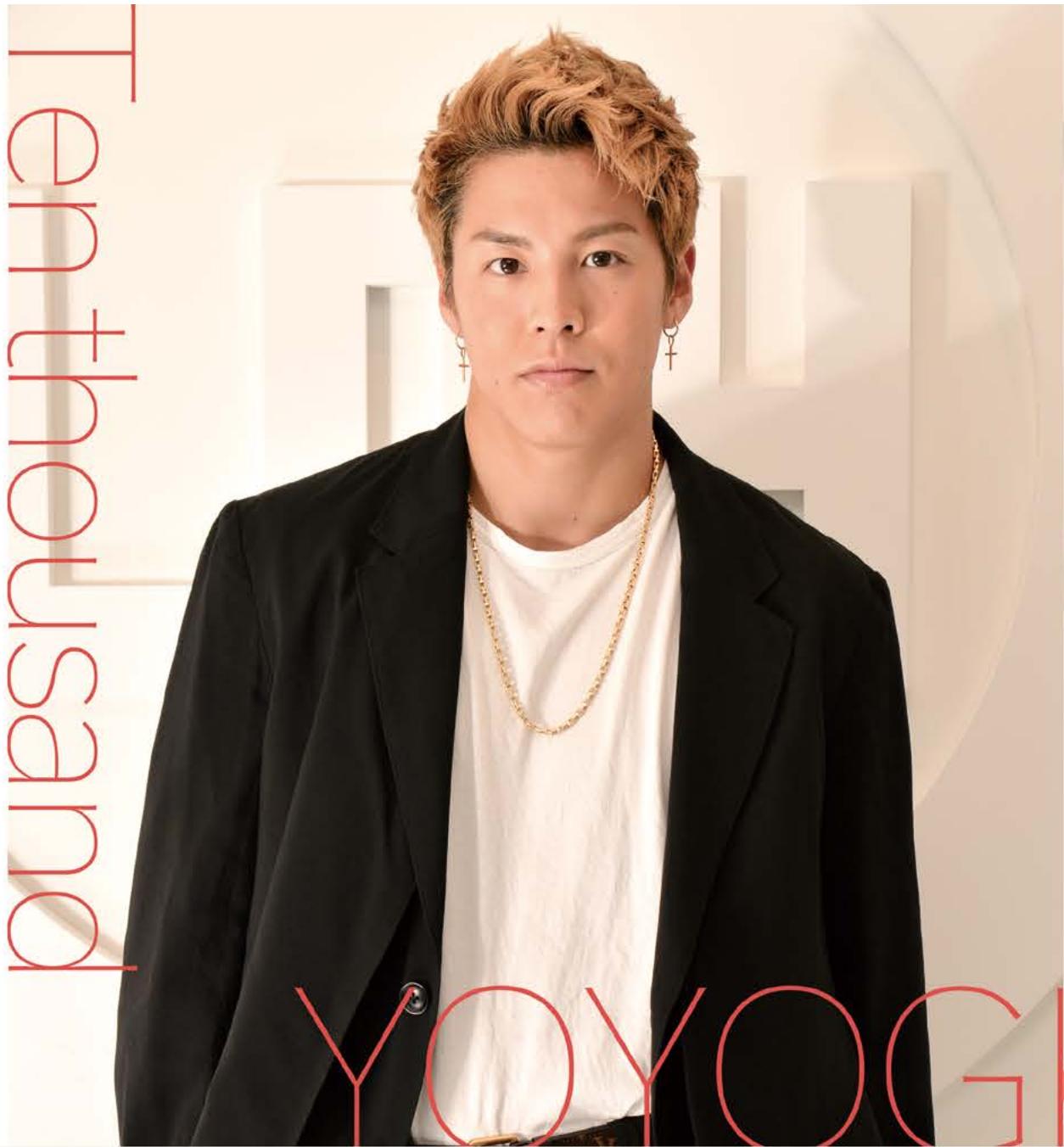


神谷健太 RIKU 浦川翔平

JAPAN MOVE UP WEST vol.40
SPECIAL FRONT INTERVIEW

THE RAMPAGE from EXILE TRIBEが先日、結成5周年のアニバーサリーを迎えた。16人でさまざまな経験をし、数えきれないステージを踏み、歌い踊ってきた5年間を経て、いま、ニューアルバム『THE RIOT』を携え、新たなステージへと踏み出す。

RIKU、神谷健太、浦川翔平にインタビューした。



――9月12日にTHE RAMPAGE from EXILE TRIBE(以下: RAMPAGE)は結成5周年を迎えました。東京の代々木公園野外ステージで行われた『THE RAMPAGE from EXILE TRIBE 5th Anniversary Special Event』には1万人ものファンが集まりました。

浦川翔平:2回目の武者修行FINALの時に同じ場所でパフォーマンスさせていただいたんですが、その時に来ていただいた方が7000人でした。あの時は1万人の方に観に来ていただくことが目標でした。今回はその**目標だった1万人!**思い出深い代々木公園のステージでたくさんの方と一緒に5周年のお祝いことができました。なかなかない機会だと思います。

神谷健太:同じ場所でパフォーマンスをできたこともそうですし、楽屋に入った時にも当時の記憶がいろいろよみがえってきました。武者修行FINALからの2年半。長かったような、短かったような、不思議な感覚になりました。

RIKU:決して武者修行当時のことを忘れてはいないんですけど、会場に向かうまでの道中にすごく思い出すことが多かったですね。またひとつ大きくなって帰って来れたのかなという感覚にはなりました。武者修行FINALの前日リハーサルの時は、みんなで電車に乗って、会場の最寄りの駅から歩いて向かったとか、会場でTwitterに載せるためのコメント動画をみんなで撮ったりもして。武者修行FINAL当日まで乗っていた武者バスを見ると、FINALまでの3ルートに分かれての武者修行期間や、みんなでFINALに向けてのリハーサルを積んだということだけではなくて、そこ以外での精神的な男磨きの修行とかそういう部分も含めて一瞬でフラッシュバックしました。

――それで、みんなでステージに飛び出して。すごく盛り上がりましたね。

神谷健太:1曲目、ファンの皆さんの前に出る時はすごく感慨深いものがありました。

浦川翔平:10月2日にリリースさせていただいた『SWAG & PRIDE』ね。ファンの皆さんへの感謝の気持ちを込めて初披露させていただいて、みなさんにも喜んでいただけて、最高のイベントになりました。

――この5年間を振り返って、グループとしても個人としても何か変わったことや成長したと感ずることはありますか?

RIKU:先輩方やスタッフさんとツアーやいろいろなイベントを回らせていただく中で、ステージをつくる時に何を大前提として考えるのか、構成をどう考えていくかという部分では、いろいろなアドバイスをいただけてきました。それによって、観に来てくださっている方のことをより考えてステージをつくれるようになってきたのかなと思う部分はあるんですけど、やっぱり自分自身で成長を感じるといのは正直あまりなくて。もちろんみんなダンスも歌も練習しますし、例えばレコーディングにかかる時間がすごく短くなってきたとか、そういったこともあるけど、それもあくまで自分の感覚であって、果たしてそれがファンの皆さんに形として伝わっているかと言われたらそうではないと思うんです。やっぱり僕たちの成長っていうのは、**僕たちのエンタテインメント**を受け取ってくださる皆さんに決めていただくことなのかなと思っています。

――“ミスターストイック”ならではの厳しさと感じるところですが、では、この質問の仕方ではどうでしょう。結成当初、思い描いていた理想のアーティスト像やこんな存在になりたいということがあ

たと思います。今のRAMPAGEはそこに近づいているという感覚はありますか?

RIKU:今でもまだ思うところはたくさんあるし、自分が思い描いているアーティスト像に近づいていけているかは分かりません。だけど、メンバー個人個人が、音楽だけではなく、さまざまな角度からエンタテインメントを発信することが増えてきているのを見ると、よりマルチに動けるアーティストというところでは、先輩方をはじめ、そういった形にはなれてきているのかなとは思いますがね。

――RIKUさん自身はいかがですか? 思い描いた姿に近づいている?

RIKU:僕たちが何かアクションを起こした時に、喜んでくださる方々が増えてきているのは事実としてあると思うんです。そうじゃないとホールツアーをやらせていただいた後にアリーナツアーにステップ

アップさせていただくこともできなかったと思うので。そういった部分では大きくなれた、進歩できたって言うのもいいのかな……。

――神谷さんはいかがですか? 変化や成長を感じる?

神谷健太:パフォーマンスをつくる時の考え方はすごく変わりましたし、舞台に立つ時の意識もすごく変わったと思います。デビューしたばかりの頃は、グループとしての形をつくることに必死で、自分たちのパフォーマンスを魅せることばかりを考えてしまっていたんですけど、今はそうじゃない。アリーナツアーを終えて、「BATTLE OF TOKYO(以下:BOT)」でJr.EXILE世代で活動もさせていただいて、先輩のGENERATIONSさんをはじめ後輩グループのパフォーマンスを見ることで、RAMPAGEのあり方やパフォーマンスのつくり方、エンタテインメントのつくり方を学ぶことができました。その部分は、デビュー当初とは180度違うくらい変わりましたし成長できてい



いると思います。

――BOTでの経験が生きている？

神谷健太:そうですね。**BOTでの経験**は自分たちにとってすごく大きくなって、リハーサルもほぼ全員でやらせていただいていたし、GENERATIONSさんやFANTASTICS、BALLISTIK BOYZのリハーサル風景を見るだけでも構成の作り方も考え方もRAMPAGEとは違う部分がたくさんあってすごく勉強になりましたし、やっぱり経験に勝るものはないと感じました。

――具体的にはどんなところが？

神谷健太:言葉で表すのが難しいんですけど、先輩のGENERATIONSさんと、ひとつのパッケージをつくる時の裏の心理というか、そ

うものがあって、そこから振りもつくられていて、RAMPAGEにも勿論裏の心理はあるんですけど、やっぱり先輩方とは舞台を経験した数も違います。経験されているからこそその視点もありますしRAMPAGEとはまた違ったその裏の意図を間近で学ばせていただけでしたね。

――BOTでの経験はすでにRAMPAGEの活動に反映されているんでしょうか？ 例えば、5周年のイベントも？

神谷健太:すごく反映されている部分はありますね。BOTが終わってからのRAMPAGEのリハーサルは流れがスムーズになっています。結成5年という年月もあると思うのですが、リハーサルでもメンバーみんなの見えるところが同じとか、ファンの皆さんが見たいRAMPAGEというものの狙いがだんだんひとつになってきているのはすごく感じますね。

――浦川さんは結成から5年の変化についていかがでしょうか？

浦川翔平:HIPHOPテイストのグループということでRAMPAGEが結成されたのですが、HIPHOPテイストってHIPHOP“風”ということだと思うんですね。先輩の皆さんのルーツもブラックカルチャーを好きな方がたくさんいるので、その部分が色濃くなっていると思います。HIPHOPの根底は、ラップ、DJ、ブレイクダンス、グラフィティなどの要素があるんですけど、そういった部分では、ラップをするメンバーもどんどん増えてきていますし、僕自身というライブでDJをさせていただいたりして、今までになかったRAMPAGEのエンタテインメントが追加されてHIPHOPが色濃いグループになってきているんじゃないかなと思います。ファンの皆さんに発信させていただくときも、カッコいいものだけではなく、楽しんでいただける要素も増えてきていると思うので、HIPHOPは海外のカルチャーではありつつも、日本の方へ向けたHIPHOPの形というものをRAMPAGEは見つけられていると思っているのでこれからもRAMPAGEがそういったカルチャーを発信できるアーティストになっていけたらと思っています。

――浦川さん個人的にはどうですか？

浦川翔平:ラップやDJもライブでもやらせていただいているので、やるからにはやっぱりタイトルも獲りたいですし、もっともっとスキルを上げてRAMPAGEに貢献できるようにもなりたいです。ファンの皆さんは勿論ですが、ラップやDJをされている方からも評価していただけるぐらい**レベルを上げてエンタテインメントを発信**していけたらと思っています。

――ただ駆け抜けただけではなく、RAMPAGEが着実にレベルアップしてきた5年だったと感じます。それを思うと、このタイミングでの『HIGH&LOW』プロジェクトは、RAMPAGEのエンタテインメントをさらに広げるという意味で大きいと思います。先ほど少しお話に出てきた**最新シングル『SWAG & PRIDE』**ですが、映画『HIGH&LOW THE WORST』の劇中歌になっていますね。

RIKU:この楽曲はHIGH&LOWが決まったタイミングでの楽曲だったので、かなり前に完成していた楽曲なんです。楽曲が出来てから、菅馬(川村)、北人(吉野)、龍、昂秀(鈴木)、ドラマでは、山彰(山本)、翔吾(岩谷)が撮影に向かいました。今まで先輩方が出演されていたシリーズはもちろん全部見させていただいていたので、それがRAMPAGEバージョンになった時どうなるんだろうというのをすごくイメージしながら制作しました。メンバーが活躍する作品に音楽面で関われるということはすごく誇らしくうれしいです。個人的には、映画に出演している菅馬と北人は役柄や作品の世界観を表現することでよりリアルな表現になるだろうと予想できたので、僕も作品を観て感じて自分なりの表現を全力でさせていただいています。

――エネルギーでアグレッシブなロックナンバーで、映画をさらに盛り上げるとしています。

RIKU:“**PRIDE**”という言葉が**タイトルに入っていて**、男と男のプライドというか、意地のぶつかり合いみたいなものは絶対に表現されるだろうなと思いましたし、ロック調ということもあり、音楽に身を任せて自分なりに表現できたと思います。

――楽曲ができてから、菅馬さんや北人さんたちが撮影に向かっ

たのであれば、この楽曲が演技のヒントにもなったんじゃないかなって思います。

RIKU: そうなっていたらいいなと思います。

―――パフォーマーチームは『SWAG & PRIDE』にはどのように取り組んでいったのですか？

RIKU: 曲は元々完成していたんですけど、パフォーマーが『SWAG & PRIDE』に取り掛かったのはリリースが決まってからだから結構最近だよ。

浦川翔平: そうですね。今回の振付は龍と昂秀が担当しています。HIGH&LOWに出演しているということもありますし、龍は楽曲を聴いてからずっと振付をやりたいと言っていたので、LIKIYAさんも龍に任せたと感じでした。2人とも結構練習して練習という感じで数カ月は考えてくれていました。

―――数カ月……これまで振付について何度かお話を聞いた事がありますが、いつもより時間をかけましたね。

神谷健太: そうですね。2人ともフルで振付をするのが初めてだったのもあると思います。でもやる気に満ちあふれていてすごく良い雰囲気でした。

―――シングルに続き、10月30日には2nd Album『THE RIOT』がリリースされます。アルバムのリード曲が5周年記念イベントの中で解禁されましたが、全体的にはどんなアルバムになりそうですか？

RIKU: 良い意味で今までのRAMPAGEのセオリーや印象を壊せる作品になっているんじゃないかなと思っています。タイトルもそういう意味も含めて『THE RIOT』というタイトルになっているので、自分の中でこのアルバムは、RAMPAGEってこうだよって常識を壊すというか革命を起こせるような作品になると考えています。1枚目のアルバムをリリースさせていただく前は、勢いの強い楽曲やHIPHOP要素が強めの楽曲を軸に発信させていただいていたのですが、1枚目のアルバムを経て、RAMPAGEらしさという軸はありつつも、いろいろなジャンルの音楽に挑戦させていただきました。『THE RIOT』には、挑戦楽曲プラス、アルバムからの新譜も入っているので、1枚目の『THE RAMPAGE』とは雰囲気が全然変わると思います。

―――『Move the World』は、代々木公園で聞かせていただきましたけど、今までのRAMPAGEとは少しイメージが違う感じでしたよね。

RIKU: イントロから全然違いますよね。

―――メンバーの皆さんで聴いたときはどうでしたか？

RIKU: あの楽曲はa-nationの楽屋でみんなで試聴会したよね。

神谷健太: しましたね……パフォーマー目線かというと、曲を聴いた瞬間から「誰が振り付けるんだろう」しか考えないんですけど(笑)

浦川翔平: 現実的なことを考えますね(笑)

神谷健太: あーこの曲はこのメンバーがやった方が良さなっていうのが楽曲によって違います。

―――やっぱりそうなるんですね(笑) 聞いていいのかしら、この曲

は、誰が担当されたんですか？

神谷健太: 今回は4人で担当しています。表題曲の音サビがとても印象深くて、レゲエっぽい曲調なので、ここは瑠唯(与那嶺)と拓磨(後藤)……

浦川翔平: あとは山彰さんと樹(藤原)。拓磨はラテン系というかセクシー系。みんな20歳を超えたこともあり、大人っぽい振り付けを取り入れる時にそういったメンバーが先陣をきってくれますね。

―――今回も立候補で？

神谷健太: 楽曲を聴いてから、みんな一致で瑠唯と拓磨でいこうという感じですね。ダンススタイルも含めて。

RIKU: 2人とも乗り気だったよね。多分音を聴いてからみんなで誰に

する? と指をさしても同じだと思います。

―――で、その振付はどんな感じになりそうですか？

神谷健太: この間2番を15分ぐらいで振り落とされましたけど、全然覚えられなくて。難しいんですよ、山彰は基本難しい(笑)

浦川翔平: やばかったですね、無茶振りだった(笑)

RIKU: みんな明後日の方向向いてたね(笑)

―――それでもやり遂げちゃうんですね。ライブで見られる日が楽しみです! アルバム楽しみにしていて良いですよね?

RIKU・神谷健太・浦川翔平: もちろんです! ファンの皆さんに喜んでいただけたと思います!

SWAG & PRIDE



○○○の秋

RIKUは、

“パワーチャージ”の秋

秋は一年間の中でも毎年、グループの為だったり、自分の為に使う時間が増えるからゆえ悩むことが多いと思うんですけど、自分はいかに好きに使える時間が増えた時に、ステージに立った時のことを見据えて、“より進化した状態でステージに戻ってこられるか”ということを大切に思っています。

秋はいつも、めちゃくちゃスタジオに行って練習したりとか、曲を作ったりとか、トレーニングも熱が入りますし、レッスンにも通いまくるし、みたいな(笑) とにかくチャージ。準備期間ですね。年末にはありがたいことに様々な番組に出演させていただく機会もあるので、その時に久しぶりに見たRAMPAGEをあいっつら半端ねえな! みたいな(笑) びっくりさせてやりたいぐらい気合いが入りますね。



神谷健太は、

“迷い”の秋

この時期はいつも悩んでる気がします。今年はなんだろう、、、自分の立ち位置(笑) 1年のちょうど中間を過ぎて今年ももうすぐ終わるなという時と、この1年の前半は何をしてきたかなというのがありますし、いつも秋は悩んでいるイメージがありますね。来年に向けてのことを考えたり、ちょうどこの時期にいつも気合いを入れ直すじゃないですけど、秋は色々なことを考えています。



浦川翔平は、

“果物”の秋

フルーツがめちゃくちゃ好きなんですけど、ひとつの季節にたくさん旬のものがあるのが秋で、夏だったらスイカ、冬だったらいちごとかあるじゃないですか。秋だったらぶどうや梨や桃などたくさん旬のものがあるので、昨日もマスカットを食べたんですけど、一週間に結構たくさんフルーツを食べるのが秋ですね。はい、急になんか話が薄くなったんですけど大丈夫ですか?(笑)



New release



9th Single
『SWAG & PRIDE』
now on sale!!
【CD+DVD】RZCD-86941/B
¥1,818(本体価格)+税
(JAN:498806486941/1)【CD
ONLY】RZCD-86942 ¥1,273(本体
価格)+税(JAN:498806486942/8)
収録内容 <CD>※2形態共通<DVD
>※【CD+DVD】のみ SWAG &
PRIDE (Music Video)



2nd Album
『THE RIOT』
10.30 release!!
【CD+2DVD】<初回仕様>三方背ケース・ライブフォトブック封入※初回仕様の在庫が終了次第、三方背ケース・ライブフォトブックのない通常仕様に切り替わります。RZCD-86948/B~C/¥7,980(本体価格)+税【CD+2Blu-ray】<初回仕様>三方背ケース・ライブフォトブック封入※初回仕様の在庫が終了次第、三方背ケース・ライブフォトブックのない通常仕様に切り替わります。RZCD-86949/B~C/¥8,980(本体価格)+税他、全5形態



吉野北人
川村壱馬
SPECIAL INTERVIEW

HIGH&LOW
THE WORST

「クローズ」・「WORST」（原作：高橋ヒロシ）と
「HiGH&LOW」が奇跡のクロスオーバー！

男たちの友情と熱き戦いを、映画、ドラマ、コミックなどのメディアミックスで描くスーパープロジェクト「HiGH&LOW」シリーズが、高橋ヒロシ原作による不良漫画の金字塔「クローズ」「WORST」と「HiGH&LOW」の奇跡のコラボ。「HiGH&LOW」シリーズでもおなじみの鬼邪高校と、「クローズ」「WORST」の最強軍団・鳳仙学園が激突。その火花の中心で新たに名乗りを上げるのは、ネクストブレイク必至、THE RAMPAGE from EXILE TRIBEのボーカル・川村壱馬と吉野北人！

川村:吉馬(以下:川村):初めて会ったのはオーディションだったよね。2次審査のときだったっけ。

吉野:北人(以下:吉野):そうそう、懐かしいね。田舎から上京して、1人で会場に向かっていたら、吉馬たちが声をかけられて。すごく怖かったもん、なんか絡まれた!?って(笑)

――THE RAMPAGEのメンバーとなる前、〈VOCAL BATTLE AUDITION 4〉での出会いを振り返る川村吉馬と吉野北人。

川村:オーディションの様子は『週刊EXILE』の番組でも紹介されていて、候補者同士お互いの存在は番組を通して知っていたので“あ、北人くん”だ”と思って声をかけたんです。最初はお互い、敬語だったんだよね(笑) 僕の中で北人は、同じ年の中で一番インパクトがあった候補者で、その当時から北人には何か直感的に感じるものがあったんです。

吉野:僕も吉馬に感じたものがありました。2次審査が終わった後に会場の外に出て話していたときに吉馬が“自分、北人と組みたい”って言うてくれたのをすごく覚えてる。

川村:確かにそれ、すごく言うてた(笑)

吉野:それが今こうして現実になっているってすごいよね。

川村:僕は絶対に受かると思っていたんだけど…三次審査の後だけは、本気でヘコむくらい、ダメージを食らったんだよね。

北人:え、そうなんだ。

川村:みんなすごくうまいな、まずいなコレ、って(笑)

北人:僕は周りを見る余裕も無かったよ(笑)

川村:でも北人とはライバル心というより、一緒に受かりたいという気持ちの方が強かった。お互い、そう話してもいたしね。

吉野:僕はもう自分のことで精一杯だったから。この人すごいなとか、この人には負けない、とか思う余裕もなく、追い込まれていました(笑)

――今ではTHE RAMPAGEのボーカルとして切磋琢磨する仲間同士。お互いの素顔を聞いてみると。

川村:意外に見えるかもしれませんが、北人はけっこう九州男児。自分

が違ったと思えば受け止めるし、自分がこうだと思ったことははっきり言うし。

吉野:吉馬は、こうと決めたらブレない芯の強さを持っている人。でも本当にすごいのは言ったことを実現させるところ。『HIGH&LOW』にも、ずっと以前から出たいと言っていて、それを今こうして実現させて目指した場所に立っている。そういうところは本当にすごいなと思う。でも“やらない”と言うときも絶対にやらないですね(笑)

川村:うん、やらないね(笑)

――そんな2人が満を持して最新作『HIGH&LOW THE WORST』で共演。川村が演じるのは『HIGH&LOW』シリーズおなじみの鬼邪高校で全日制の覇権を狙う転入生・花岡楓士雄(はなおか ふじお)。吉野が演じるのは、楓士雄との再会により、再び戦う理由を見出していく高城司(たかじょう つかさ)。

川村:楓士雄はひと言で言うど“バカ”ですかね(笑) ただ、バカなんですけどちゃんと大切なことは分かっている。バカっぽく見えるし自由気まま。でも結局、そんなところも人としての器が大きいというところにつながっている。仲間をすごく大事にするし、それが周りから愛される部分で



もあるんじゃないかな、と思う。僕との共通点は…あまり無いです(笑) ただ、表現の仕方は違えど“これは違う”と思ったら曲げないところは通じるものがあるかな。でも楓士雄は僕に無い魅力をたくさん持っているキャラクターなので、川村吉馬としては、楓士雄という役から学んだことは多々ありました。特に仲間を大切にする方法だったり、いいなと思ったことを自然と自分も取り入れていました。

吉野:司は、考え過ぎてしまうところがかわいいなと思いました。すごく悩むじゃん、と思って(笑) 僕は考えるよりまず行動したくなるタイプなので、ドラマシリーズのときから、司のそういう考え過ぎてしまうところがかわいいなと思いつつ、ムズムズしていました。“司、早く行け!”って(笑)

――鳳仙学園を率いる上田佐智雄役で出演する志尊淳をはじめ、鬼邪高校・定時制の番長・村山役の山田裕貴、同校全日制で絶大な力を誇る轟役に前田公輝など、共演者も豪華な布陣。

川村:楓士雄というキャラが入っていたからなのか、現場でもあまり変な緊張はありませんでした。皆さん経験豊かな俳優さんですし、中でも裕貴さんと公輝さんは前から『HIGH&LOW』を支えてきた方々なんですけど、僕の方も“やってやる”くらいのスタンスで現場に臨んでいたんで、そこで変に怖気付くことはありませんでした。だからこそ、皆さん公私ともにフラットに接してくださったのかな、と思います。実年齢だと、裕貴さんは7歳、公輝さんなら6歳とけっこう上なんですけど、僕は基本的に年上の方は好きなので(笑) 本当に気さくですてきな方々で、すごく温かく

接していただきました。

吉野:僕もよく裕貴さんや公輝さんと一緒にシーンでお芝居させていたでいて、役者としての存在感を肌で感じていました。僕もずっとシリーズを見ていましたから、村山や轟と、この世界で司として対面できて本当にうれしかったです。僕は少し緊張に負けそうでしたけど(笑) 同じシーンの撮影では、たくさん学ばせていただきました。その場のお芝居だけでなく、役作りや芝居への取り組み方、人間性まで学ばせていただき、とても刺激を受けました。

――ちなみに2人のお気に入りのキャラクターは?

川村:シリーズ全体で言うと…プライベート含め良くしていただいている雨宮兄弟の雅貴と広斗ですかね(笑) 普段のTAKAHIRO(雅貴役)さんと登坂広臣(広斗)さんの関係性が映像にも出ていて、キャラクターにすごく生かされていると思います。僕自身、お2人を見て成長してきた部分もあるので、雨宮兄弟はあこがれのキャラクターです。やっぱり『HIGH&LOW』の世界の中で、雨宮兄弟の存在って大きいじゃないですか。いずれは楓士雄たちがシリーズをけん引していくキャラクターになればいいな、と。僕も、気合入りまくっているんで!

吉野:では僕は本作から、荒井敦史が演じる鳳仙四天王“小沢仁志”の1人・志田健三。まずキャラクターとして強そう(笑) 雰囲気からしても“この人、絶対強いんだろうな”というものを感じる。

川村:撮影現場でも、オーラがすごかったもんね。

吉野:そうそう。鳳仙を裏で仕切ってる、みたいなオーラがあって(笑)

川村:すごい男前だしね。でも普段の敦史さんはとても面白くて、すごくしゃべるんだよね。役と正反対じゃないかというくらい(笑)

吉野:確かに(笑) そのギャップもあって、僕の中でお気に入りのキャラになっています。

――そしてもちろん、シリーズの醍醐味、アクションシーンでも大活躍。

川村:幼なじみの新太(矢野聖人)との、心揺さぶられるアクションシーンは強く印象に残っています。あのシーンは自分でも大事にしていました。撮影時も、周りが物音をたてないよう気遣うくらい、ものすごく集中していたみたいで。自分では自然体でいたつもりだったんですけどね。一番、感情が動いたシーンでもあって、映像だと見えにくいかもしれないんですけど、本当に涙が一粒、目からこぼれているんです。すごく勉強になりましたし、完成した映像を見て本当にやってよかった、と思いました。

吉野:僕は、鳳仙と鬼邪高が激突する直前の“これから始まるぞ”感あふれるシーンが好きです。現場でも、本当に戦うんじゃないかというくらい殺気が飛び交っていて、僕自身もアドレナリンが出ました。

北人は、
けっこう九州男児。

壱馬は、
ブレない芯の強さを持っている。



――本作は高橋ヒロシによる不良漫画の金字塔「クローズ」・「WORST」とのコラボが実現したスペシャルな1本。

川村:身近な世界観のようでいて、ファンタジーでもある。そのバランスの良さが『HIGH&LOW』の魅力じゃないかな。と。そんな世界観が、とてつもない規模感で繰り広げられる究極のショーというか、次元が違うエンターテインメントでもあると思うんですが、今回は高橋ヒロシ先生が初めて映画脚本を書いてくださって、高橋ヒロシワールドと『HIGH&LOW』が融合して、すごい化学反応が起きている。そこが大きな見どころですね。

吉野:本作でもアクションシーンが大きな見どころになってくると思うんですが、そこに“戦う理由”があるというのが大事な点かな、と思っています。僕も“司が戦う理由”を大事に、アクションにも感情を込めるということを意識して演じていました。それぞれが何のために戦うのかが描かれていてアクションからも伝わってくるので、その男臭さというか泥臭さが

男にさりやすいと思うし、女性も胸が熱くなるドラマが描かれている。男女問わず楽しんでいただける映画になっていると思います。

――自らの強さを磨き“てっぺん”を目指す男たち。2人にとって強さとは?

吉野:僕が思う強さとは、人に対して優しくできること、思いやりを持つこと、かな。僕自身、そういう人に魅力を感じます。自分のことしか考えられない人よりも、他人のことを思ってあげられる、気を配ってあげられる人に魅力を感じるんです。そういう人に回りはついていくし、自然と人が集まってくる。それが人間としての魅力、強さじゃないかな。僕もそういう強さが持てるようになりたいですし、メンバーの一人ひとりをもっと覚醒して、全員、自分が引っ張っていくという自覚を持ってやっていけばTHE RAMPAGEが“てっぺん”を取れる日がくると思います。

川村:僕にとって強さとは…弱さ、ですかね。自分の弱さを知っているこ

と。そこから目を背けていては、成長はないし、自分自身と向き合うこともないと思う。自分の弱さを知れば、短所を改善できるかも知れないし、逆にそれを強さに変えることだってできるかもしれない。やっぱり、どんなことでも“知る”というのは大事だなと思います。例えば何か悔しいことがあったときに“自分はこのままじゃあない”で終わってはいけないんですよね。“これが今の自分だ”と知って“じゃあ、それをどうするか”を考えないと。自分が今、クリアするべきことは何なのか、知るべきことを本当の意味で理解しているかどうか。それは自分自身の強さにつながると思うし、結果や成功につながっていくと思う。だからまず、自分の弱さを知ることが、強さを得るための一歩かな、と思っています。

――まずは本作で2人が放つ強い輝きに、一緒に胸を熱くすべし!

川村 壱馬 ヘアメイク・ウエノ アヤコ (KIND) スタ일리スト・中瀬 拓外
吉野 北人 ヘアメイク・谷川 一志 (KIND) スタ일리スト・中瀬 拓外
photography イシバントシハル

HiGH&LOW THE WORST 岡山イオンシネマ等で上映中

監督:久保茂昭 出演:川村壱馬 志尊淳/吉野北人 前田公輝/山田裕貴 他/2時間5分/松竹配給/high-low.jp
(c)2019「HiGH&LOW THE WORST」製作委員会 (c)高橋ヒロシ(秋田書店) HI-AX



AMAZING COFFEE

Special Report



by JAPAN MOVE UP WEST 編集部

OKAYAMA 初 上陸

9月15日開催 桃太郎フェスにてEXILE TETSUYAさんプロデュースのAMAZING COFFEEが岡山初出店されました！
さらに、桃太郎フェス当日は『農マル園芸』さんの岡山県産のフレッシュなフルーツを使ったこの日限りのコラボドリンクも販売されました！
当日はオープン前からたくさんの方が訪れ、猛暑の中列が途切れることがないくらいの大盛況となりました！

OKAYAMA collab DRINK ダンシング 桃CHA郎

岡山県出身の山本彰吾さんのコラボドリンクは、岡山県産の桃と山本彰吾さんが好きなチャイに、水出しコーヒーを合わせたドリンク！
カップの下には、桃ピューレがたっぷり入っていてチャイとの相性もばっちり！

お客様の声

岡山と岡山県出身の山本彰吾くんのアメコのコラボすごく嬉しいです！
桃とチャイが混ざって新しい味のドリンクでした！
上に乗っている桃がすごく甘くて美味しかったです！
コーヒーがあまり得意じゃないのでチャイで飲みやすかったです！
今度は、RAMPAGEが岡山に来るイベントでコラボしてほしいと思いました！

OKAYAMA collab DRINK キラッと シュワッと マスカッと

桃太郎フェスに出演されたDream Amiさんコラボドリンクは、岡山県産のシャインマスカットがゴロゴロ入った爽やかな炭酸コーヒー！
仕上げに星型の金粉がトッピングされていて見た目もすごく可愛いドリンク！

お客様の声

AMAZING COFFEEと岡山のコラボ最高です！
星の金粉がAmiちゃんらしくてすごく可愛くてマスカットのドリンクもとても美味しかったです！
岡山にアメコがあったら絶対毎日通います！！
これからも岡山とアメコでたくさんコラボしてほしいです！

OKAYAMA collab FRUIT

→ 農マル園芸さん



今回桃太郎フェス限定コラボドリンクに使用された桃とマスカットは岡山県の総合観光農園、『農マル園芸』さんよりご提供いただきました！
吉備路農園 & あかいは農園では季節のフルーツや野菜などの直売やイベント開催、シーズン中はいちご狩りなどの体験もできますのでお出かけの際はぜひ農マル園芸さんへ行ってくださいね！
詳しくはHPをチェック！ [農マル園芸](#)



農マル園芸 (運営: アグリ元氣岡山) TEL: 0866-94-6755 〒719-1164 岡山県総社市西郡411-1 (本社)



HAPPiLA

さらにこの日はEXILE ÜSAさんプロデュースの『HAPPiLA』も出店されました！ EXILE ÜSAさんのこだわりが詰まったオリジナルテキーラは100%アガベで質の高いテキーラなので飲み口もスムーズ♪ HAPPiLAをそのまま味わえる定番のショット、桃太郎フェス限定の『HAPPiLA×桃』のオリジナルカクテルが販売されました！



Thank you!

MUSIC TRIBE 2019

All audiences and readers!



and JAPAN MOVE UP WEST編集部が当日舞台裏に潜入!

MOVE UP TV

随時、配信中!!



MUSIC TRIBE 2019 After movie



BALLISTIK BOYZ from EXILE TRIBE Dressing room movie



MOVE UP TVの視聴はコチラから!!

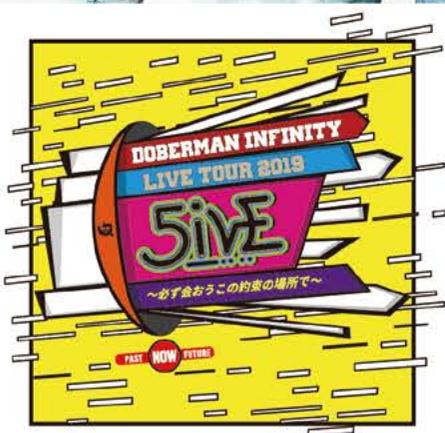
無料視聴可能 ※会員登録の必要はございません。
<https://www.japanmoveupwest.com>

JAPAN MOVE UP WEST



DOBERMAN INFINITY

待望のアリーナツアー開催決定!!



大阪 **11/26** 日 & **27** 日 大阪城ホール
OPEN 18:00 / START 19:00 全席指定 9,000円(税別)

※6歳以上有料、5歳以下入場不可。 ※開場・開演時間は変更になる場合がございます。 ※都合により興行内容の一部を変更する場合がございます。

チケット好評発売中!

ローチケ DOBERMAN INFINITY



ホップステップジャンプ…と見せかけて、ホップステップバック!! リハビリって、まあそんなものですよええ(笑)。

もちろん左膝の術後の経過とリハビリは順調ではありますが、なかなか歯がゆいものです。三歩進んで二歩下がる。やり過ぎてはよくないし、やらなくてもダメ、、、とにかくずっと前向いて地道にやるしかないのです。

しかし!! ちょっとずつではありますが、踊れるようになってきているのも事実です^_^

そんな中、先日、東京の駒沢公園で行われた、イベント「BIG BON ODORI」のプロデュースをした、USAさんに誘っていただき、日本のカルチャーである盆踊り大会を、音や振り付けを変えて、新しい形で表現できたのですが、久しぶりにステージでたくさんの人前で踊る事ができて、本当に楽しくてうれしかったです↑↑

以前から、いつか新しいお祭りを作りたいと話していたUSAさんの夢が叶った瞬間に立ち会えたのもうれしかったですし、2日間で3万人の人が訪れた中には、大人も子どもも、外国人もみんな“和”になって踊っていて、改めて日本の踊るというカルチャーに感動しました!

ところでみなさん、お神輿を担ぐ時の掛け声の、ワッショイって…和っしょい…

「和を背負う」って意味だと知っていましたか? 諸説ありますが、みんなで1つになって和を背負う、日本を背負うみたいな意味なのですが、これって素敵じゃないですか?? 日本語って奥深い

なあ勉強になりました。

これから1人でも多くの人と踊りながら和っしょいする事が、日本を元気にしますし、何より楽しいし、素敵な日本語で表現すると、「粋」ってヤツですね!!

粋を調べてみると、、、気性、態度、身なりがあか抜けてしていて、自然な色気の感じられる様、と書いてありました。なかなか簡単にそうなれるものではありませんね(笑)。

それでも、なんだか久しぶりに心まで踊る言葉に出会えたので、「和っしょい」しながら、粋な男になれるように頑張りたいと思います!

そしてそして、ローソン マチカフェさんとのコラボドリンク「アメージングアイスキャラメルラテ」を飲んでいただいた全国の皆様様、とてつもない感動と、心からの感謝をこの場所をお借りしてお伝えさせていただきます。

まだもう少し販売しているところもありますが、全国に咲いたアメージングな花が、たくさんの方々の笑顔にそっと寄り添っていたら、何よりの幸せです。

これに驕る事なく初心を忘れずに、いつかまたコラボさせていただけるように、コーヒー屋さんとしても、EXILEとしても精進していきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い致します。

そして、そんなAMAZING COFFEEを立ち上げてから4年が経ち、さまざまな事に挑戦してきましたが今回、ファンクラブの中からCOFFEE



部が立ち上がりました。コーヒーフリークなファンの皆さんと、もっと濃い時間と空間、そしてテイストを楽しめる機会という事で、まず第一回目の部活動は、普段からお店に来ていただいたり、楽しんでくださる皆さんに、直接感謝を伝えるパーティーを開く事になりました。

今回は、AMAZING COFFEEのプロデューサーとして、初めて自身で直接コスタリカの農園に行き豆を買い付けして、パーティーに届けるので、それをいち早くテイスティングしていただくと思っています。他にも美味しいお食事と、楽しい時間をたっぷりお届けしていこうと思っております

で、ぜひチェックしてみてください。

こういった企画や機会も、LDHやEXILE、そして各グループがあつての事なので、環境に感謝しながら楽しみたいと思いますし、今年も後半になりあつという間に年末が来てしまいそうですが、2020年はカウントダウンライブを皮切りに、LDH PERFECT YEAR 2020が控えていますし、全アーティスト、全コンテンツで、日本を粋に元気に。“和っしょい”していきたいと思っておりますので、ぜひぜひ楽しんでみてください。(o^o)v

(TOKYO HEADLINE vol.722 より)

19歳よりダンスを始め、EXILE PROFESSIONAL GYMにてインストラクターを務める。2007年に、二代目 J Soul Brothersのメンバーに抜擢され、2009年2月25日に、アルバム『J Soul Brothers』でメジャーデビューを果たす。そして、同年3月1日にEXILE新メンバーとして加入し、2011年には、THE SECOND from EXILEとしても活動を始める。また、個人活動として2011年に月刊EXILEにて、自身が所長を務める『EXILEパフォーマンス研究所』の連載を開始する。2014年4月、淑徳大学人文学部表現学科の客員教授に就任する。そして、2015年4月にEXILE USAが活動を行っているDANCE EARTH PARTYの正式メンバーに選ばれる。2018年3月、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科を卒業。そのほか、役者としてドラマや舞台に出演するなど、さまざまな活動を展開し、エンターテインメントの可能性を広げている。

DF20

photography : 宗村 和磨 (NEMURA FILMS)
©2017 F.O.S.C.

54 ×  VOL.10
JAPAN MOVE UP WEST

選手のここで見える事の出来ない素顔を知って地元リーグチームを応援しよう!

CUTEな チェジョンウォン選手に 11問11答!!

01.子供の頃はどんな子供だった?

—— **イタズラ好き**。よく両親を困らせていました。
サッカーは小学4年生の時にはじめました!!

02.周りからはどんな人って言われる?

—— 仲良くなった人からは **イタズラ好き・活発** と言われます。

03.良く聴くアーティストや曲は?

—— **TWICE!**
試合の前は、賑やかなEDMなどをよく聴いています。

04.練習から帰宅後1番にすることは?

—— **お昼寝(笑)**

05.岡山で感じたことや印象は?

—— サポーターの方が **親切です!**
すごく熱い 応援をしてくれます!

06.これは、自分のギャップだと思うことは?

—— **実は、神経質**。試合前のルーティンが多い方だと思います!
ソックスやスパイクは、必ず左から履くとか。

07.仲のいいチームメイトは?

—— 韓国出身の選手(#9ヨンジェ選手・#29ヨンヒョン選手・#40キョンテ選手)
良く4人でご飯を食べに行きます!
みんなで大阪や神戸にも行きました!

08.2019年の夏の思い出は?

—— **とにかく暑かった!!** という思い出です!(笑)

09.オフの日は何してる?

—— 次の日が練習のオフの日は、外に行きたいけど、体力を温存するために
家でゲームをして過ごします!

10.サッカー選手になっていなかったら何をしていた?

—— 兄がしている仕事の手伝いをしていたと思います。

11.好きな女性の仕草は?

—— **髪の毛を後ろで結ぶ仕草かな。**



Profile

チェ ジョンウォン 1995年8月16日 186cm/83kg 大韓民国出身
よく動き、しっかり守るジョンウォン選手。長身でスタイル抜群、そして甘いマスクでサポーターにも大人気。撮影中もそのスタイルと笑顔に現場にいたスタッフもみんなジョンウォン選手に釘付けでした。動画インタビューでは、慣れない日本語で一生命質問に答えてくれているので是非、ご覧ください!!

インタビュー選手の素顔が見える!!

JMUW WEB限定
JAPAN MOVE UP WEST × ファジアーノ岡山

MOVE UP TV
JAPAN MOVE UP WEST

氷上の社交ダンス

ひょうじょう

SPECIAL FRONT INTERVIEW

フィギュアスケート競技

アイスダンス

平山 姫里有

kiria hirayama

石橋 健太

kenta ishibashi

氷上の社交ダンスと呼ばれる競技、それが倉敷市出身の平山姫里有とペアの石橋健太が取り組む“アイスダンス”。昨年末の全日本選手権では準優勝を飾り、今年もますます飛躍を魅せていく。一般的なフィギュアスケートと違い、ジャンプが無いのがアイスダンスだが、フィギュアスケートにはない魅了や楽しみ方をインタビュー。



――フィギュアスケート、アイスダンスを始めたきっかけを教えてください。

平山姫里有(以下、平山)：小学1年生のときに、当時テレビで活躍していた浅田真央さんたちのフィギュアスケートを見てカッコいいな、やってみたいと思いはじめたのがきっかけです。最初は、シングルをされていて小学4年生のころにクラブの先生に勧められてアイスダンスをはじめました。

――アイスダンスはどんな競技ですか？ 魅力や楽しみ方を教えてください。

石橋健太(以下、石橋)：元々、僕もシングルをやっていて3年前にアイスダンスを始めたんですけど、ひとりの時と違ってペアの相手と同じものを作り上げていく良さがあります。一緒に苦楽を分かち合えるし、氷の上ではケンカもします(笑)でも、氷から離れると仲直りしよう。ルールではないけど暗黙の了解みたいな。

どっちかが落ち込んだら励ましたりも出来るので、そこがアイスダンスの魅力の1つだと感じています。

平山：アイスダンスは、ジャンプとかがない競技なので見ている方は物足りないように感じるかもしれませんが、持ち上げる技のリフトとか、2人でスピントか、そういう息のあった技を是非、注目して欲しいです。

石橋：アイスダンスは、基本的に2人が離れたらダメな競技なんです。アイスダンスは、ジャンプとかがないので、スケートिंगやキャラクター性、表現力の部分で楽しんでもらえたら良いと思います。

――平山さんと石橋さんがペアを組んだ経緯を教えてください。

平山：同じ時期にペアがない時があって、2人とも同じ先生に教わっていたんですけど、お互いに顔見知りではありませんでした。その時に先生に“トライアウトしてみたら？”と勧められたのがきっかけです。ペアを組んで今年の5月からアメリカに3ヶ月間行って、そこで2試合に出場してきました。アイスダンスは国内での試合が少ないので海外で出場します。

――平山さんのこれからの目標や夢は何でしょうか。

平山：今年は、フィギュア四大大陸の試合に出場するために11月・12月の試合で結果を残すことが目標です。最終目標は、2人で2022年の北京オリンピックに出場することです！



Profile

平山 姫里有

1999年 3月31日生まれ 岡山県倉敷市出身

受賞歴

2011年全日本ノービス 2位 / 2012年全日本ノービス 1位 / 2013年リヨン杯(フランス) 10位 / 2013年全日本ノービス 3位 / 2015年西日本ジュニア 2位 / 2015年全日本ジュニア 3位 / 2017年西日本ジュニア 1位 / 2017年全日本ジュニア 2位 / 2018年西日本選手権大会 1位 / 2018年全日本選手権大会 2位 / 2019年 テキサスオープン(アメリカ) 1位 / 2019年 レイクプラシッド(アメリカ) 10位

石橋 健太

1995年 4月26日生まれ 大阪府大阪市出身

FREE ^{JMUW} vol.40
Oct. 2019

SPECIAL FRONT INTERVIEW

ICE DANCE

フィギュアスケート アイスダンス選手

平山 姫里有 & 石橋 健太

JMUW × FAGIANO SPECIAL INTERVIEW

チェ ジョンウォン

FAGIANO OKAYAMA DF 20

SPECIAL Report

AMAZING COFFEE

2019.9.15 MOMOTARO Fes.

JAPAN **MOVE** UP WEST

5+4